

## 1. 基本構想

私たちは、幼稚園、小学校、中学校それぞれの保健室をホームベースとして、子どもたちが生涯にわたって自らのところとからだの健康を育み、この社会をたくましく生きていく力づくりを支援していきたいと考えている。

そこで、附属学校園の保健目標を以下のように掲げたい。

「人とのかかわりの中で、健やかなところとからだづくりに主体的に取り組む子どもを育てる」

そして、保健目標を具現化した子どもの姿を、次のように考えている。

☆ 育てたい子どもの姿

### 【幼稚園】

- ① 自分のからだの様子を知り、自分のからだに関心を持ち、大切にしようとする子ども
- ② 基本的な生活習慣と、日常生活に必要な健康習慣が身についた子ども
- ③ 友だちのからだを気遣う思いやりの心を持った子ども

### 【小学校】

- ① 自分のところやからだの変化に気づき、ところやからだの健康を豊かに考える子ども
- ② 自分の生活をふりかえりながら、自分の健康を主体的に考え、実行できる子ども
- ③ 他者の思いに気づき、共感できる子ども

### 【中学校】

- ① 自主的に心身の健康管理ができる、たくましい子ども
- ② 健康に関することから興味や関心を持ち、課題を発見し、自ら学ぶ姿勢を持つ子ども
- ③ 自他の生命を尊重し、共によりよく生きようとする子ども

## 2. 一貫教育推進における重点活動

### 1) 保健管理

- ・ 保健調査票、健康診断等の記録票の検討、統一
- ・ 健康観察簿の検討
- ・ 学校伝染病報告書、医療機関への受診勧告書の検討、統一
- ・ 幼小及び小中接続における情報の伝達（連絡会の実施）

### 2) 健康相談活動

- ・ 支援記録用紙の作成

### 3) 教育相談

- ・ スクールカウンセラーとの連携（連絡会の実施）
- ・ 合同ケース会議の実施

### 3. 現状と課題

#### 【幼稚園】

保健室来室者は1日5～6人程度で、軽症の外科的訴えがほとんどである。養護教諭の手当や言葉かけ、友だちからのやさしい言動によって、安心感や満足感を得ているようである。時には、自分の思いを言葉にすることが未熟なため、精神的不安が体の痛みとなって現れることがあり、担任と連携して対応している。

発育測定時の保健指導を継続しておこなっており、子どもたちがその指導内容を家庭で話題にしている様子が伝わってくる。また、本園の保護者は子どもの健康や安全について関心が高いため、保健管理や保健指導の充実が、園と保護者の信頼関係を築いていくことに繋がると考えている。保健指導の内容を、日常生活に活かしていけるように、家庭にもほげんだよりを通じて分かり易く伝えていき、協力をあおいでいく手だてを工夫していきたい。

心の健康については、幼児期の心の問題を長い成長過程の一部として捉えることができるよう、ほげんだより等を通じて保護者に伝えていきたい。

#### 【小学校】

保健室においては外科的訴えでの来室が多いが、けがの原因となったトラブルについての心的状態にも注視している。また、身体的訴え等が特になく来室や不定愁訴も継続して多いため、健康相談活動を重点的に取り組んでいる。

継続して関わるケースについて、担任や特別支援担当、管理職、スクールカウンセラー、外部の機関と連携し、タイムリーな情報交換に努めている。幼稚園、中学校との連携については特に、家庭への支援について共通理解、共通の支援方針が必要なケースもあるため、今後も随時、養護教諭同士で情報交換をおこない、関係者による合同ケース会議を提案、実施していきたい。また、子どもが問題を抱えた時に、どのような対応をして、それがどう影響したか等を記録し、子どもの成長の過程として引き継ぐ形式を作成していくことが必要である。これが情報共有のベースとなり、スムーズな連携に繋がっていくと考えている。

生活習慣に関しての健康課題として、就寝時刻が遅く、睡眠時間が日常的に短いことを挙げる。特に学年が上がるに従って遅くなっている。子どもの睡眠時間の確保への取り組みを、家庭への啓発を含め、今後探していきたい。

#### 【中学校】

中学校では、保健室での個別の健康相談活動が主な活動である。中でも生活習慣の乱れによる体調不良・友人関係や家庭でのトラブル・息抜き等の理由で来室する頻回来室者への対応と、別室登校の生徒への対応が主となっている。こうした生徒には養護教諭だけでなく、関係教員がチームを組んで支援をすることで、対応の幅が広がり効果が上がっていると感じている。

現在は各校種のみでの対応だが、一貫教育においては、接続時または必要時または定期的に幼小中で情報交換を行う機会を積極的につくり、スクールカウンセラーの助言も得ながら関係教員が情報を共有しあう事で、本人や家庭をより強く支援していくことができると考える。